

方法：

- ①公園ボランティア
- ②公園との双方向の交流
- ③ビオトープネットワークの創造

成果：

- ・ 児童による年数回の公園ボランティアが3年間続けられた。自然保護の意識が高まった。
- ・ 学校側にも公園側にもメリットがある学社融合による環境教育が行われた。
- ・ 学校と公園との間に休耕田を活用した溜め池が竜洋町によって造られ、ビオトープネットワークができあがった。



3 ビオトープニュースによる広報活動

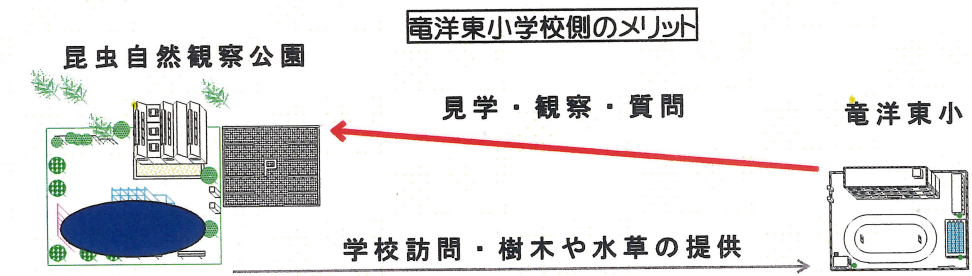
平成10年5月から13年2月まで「竜洋ビオトープニュース」を第37号まで発行した。



竜洋町昆虫自然観察公園との学社融合による環境教育の推進

学社融合の押さえ
「学社融合」は、学校教育、社会教育の双方に主体があり、協力して教育活動を行う中でより効果が上がり、学校教育、社会教育両方にメリットがある。いっぽう、「学社連携」では、学校教育が主体であり、そのメリットも主に学校側が享受すると、自分なりに押さえている。

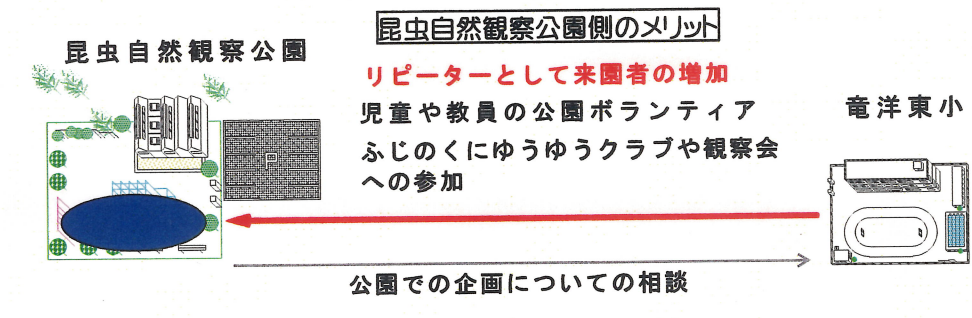
私が関わった平成10年度～12年度までの3年間には、以下のように学社融合が進められました。



- 観察・見学・質問
- ・ 理科や特別活動、総合的な学習の時間の授業の一環として昆虫公園を訪れ、観察や見学を行うことで、学校周辺での自然観察よりも教育効果が上がる。
 - ・ 必要に応じて教師が、昆虫公園職員の指導を受けられる。
 - ・ 児童や教師が、学校図書館にない専門書や図鑑を見せてもらえる。
 - ・ 捕まえた昆虫の名前が分からないときに、児童が電話で質問できる。



- 学校訪問・樹木や水草などの提供
- ・ 理科の環境に関する授業でのチーム・ティーチングをお願いする。
 - ・ 東小ビオトープへの助言・指導をお願いする。
 - ・ ビオトープの管理の仕方について、教師が公園職員に質問できる。
 - ・ 公園内の動植物を東小ビオトープへ移入してもらえる。



- 昆虫自然観察公園側のメリット
- ・ リピーターとして来園者の増加
 - ・ 児童や教員の公園ボランティアふじのくにゆうゆうクラブや観察会への参加

公園での企画についての相談